NEWS
病院ニュース
2008年10月　第15号（年4回発行）

主な内容

1面 ●千葉県産の新鮮野菜を使ってメニューづくり ―栄養状態と病院食改善の取り組み―
2面 ●地域の病院、診療所と密接な連携〈地域医療連携部〉 ●新病棟の人気・注目スポット
3面 ●千葉大学病院の職場を見学し、体験して ―サマーインターンシップ― ●ミニニュース
4面 ●＜フリートーク＞食道・胃腸外科教授：松原久裕 ●＜亥鼻むかし・昔＞❻ 共に厄除けの神様です ●＜トピックス＞インフルエンザの季節です！

千葉大学医学部附属病院　〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1　TEL 043-222-7171（代表）　http://www.ho.chiba-u.ac.jp/

千葉県産の新鮮野菜を使って 安全 おいしい 栄養状態が良くなる メニューづくり

●栄養状態と病院食改善の取り組み

単調な入院生活の中で、大きな楽しみとなっているのが食事―。それだけに「薄味過ぎておいしくない」などのご意見が寄せられたりします。また、化学療法など治療の副作用により食欲が落ち、栄養状態の低下に悩まされる方もよくみられます。これに対し千葉大学病院では、「病院食は治療の一環」の原則を守りつつ、患者さんのさまざまな声に耳を傾け、〈安全・衛生面〉〈栄養面〉に加え、地産地消を基本としておいしい食事の提供に努めています。

栄養状態の〈改善〉に向け、臨床栄養部と栄養サポートチームが連携

この病院食に関する管理業務は、医師、管理栄養士など12名で構成する「臨床栄養部」が担当しており、フードサービス部門とクリニカルサービス部門があります。

このうち、フードサービス部門（給食管理業務）では、入院患者さんに病態にあった治療食を提供すること。また、安全、衛生的で、おいしい食事を作るための調理技術やメニューの向上に努めています。

クリニカルサービス部門では、管理栄養士が治療法や各種の病態、生活習慣に基づいて、それぞれの患者さんに合わせた栄養の相談（指導）業務を行っています。さらに、8つの病棟では、病棟担当管理栄養士が、入院した次の日に患者さん一人ひとりを訪問し、栄養管理計画を作成。病棟スタッフと連携して栄養状態の改善のためのサポートを行っています。

このほか、院内に組織されている「栄養サポートチーム（NST）」のメンバーとして、栄養管理計画の提案を行い、患者さんの栄養の改善に努めています。

管理栄養士が一人ひとり訪問し、管理計画を作成

「栄養サポートチーム（NST）」とは、入院患者さんに対する高度な栄養管理を行う実務的な組織として、平成18年4月に発足。医師、薬剤師、看護師、検査技師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士などで構成され、①患者さんの栄養状態」の評価、判定②適切な栄養管理の指導、提言③栄養管理における合併症の予防、早期発見、治療などを臨床栄養部と緊密な連携のもとで行っています。

種類を増やし、化学療法に対応したお食事の導入も

病院食の改善については、まず〈検食〉という制度があります。これは、その日に患者さんに提供するメニューを病院長をはじめ看護部、事務部、栄養委員、栄養管理室のスタッフが試食し、その所見をまとめて検討を加え、その結論を次回の献立に反映させるシステムです。

ここでは、治療食としての効果や安全・衛生面のほか、当然のことながら味付け、すなわち〈おいしさ〉も評価の対象となります。食の安全や調理技術の向上を前提に、この〈おいしさ〉を求めて現在取り組んでいるのが、地元千葉県産のお米と、有機農法の新鮮野菜の導入。〈地産地消〉を合い言葉に、契約農家から直接仕入れたほうれん草やニンジン、ネギ、ダイコン、カブなどの野菜類を、その日のうちに調理して提供しています。

ちなみに、さる6月入院患者さんを対象に実施した〈食事の満足度調査〉では、全体として「改善の必要あり」は約30％であり、おおむね「満足」の回答が得られています。しかし「メニューがパターン化していて、飽きてしまう」等の回答もあり、現在〈安全でおいしい病院食〉〈メニューのバリエーションやサイクルの充実〉などをテーマに、具体的な改善策を検討中です。

また、現在は、化学療法中の副作用による食欲低下のお悩みにお応えするため化学療法に対応したお食事提供を開始する計画を進めています。化学療法を熟知した「医師、薬剤師、看護師、管理栄養士」からなるワーキンググループを発足。化学療法をされた方のアンケートの声をもとに検討を重ねています。

一般食

◆ある日のお昼のメニュー
- 炊き込みごはん
- 鶏の照り焼き
- なすの落花生和え
- パイナップル
- 味噌汁（麩・ほうれん草）

＊このうちの米、野菜類に関しては、100％千葉県産です。

いのはな コラム 患者さんの作品も飾って…

▶先日、ひがし棟に絵を飾ってくださった教育学部と工学部の皆さんへの「お礼の会」がありました。その後、一緒にこれらの絵を見て回りましたが、4月壁にかけたときと比べて、どの絵も実に周囲に馴染んで溶け込んでいるのを全員が同様の驚きをもって眺めました。不思議なものです。

▶アメニティという点では、まだまだ日本の病院は欧米に見習うべきところがあります。私は各国を訪れる度に現地の病院を訪問し、それらを参考として本院にもっと明るい、和みの空間を創りたいと思っています。

▶幸い千葉大学は総合大学であり、多数の優れた建築、園芸、美術、そしてデザインの専門家がおります。彼らの協力で、ひがし棟を今までと違った空間にしたいと考え、絵画のほか、園芸学部にお願いして多くの緑を配置し、また1階のタリーズ前の光庭に植樹しました。

▶これから、みなみ棟、にし棟の改修においても、患者さんが和める病院を目指して、ひがし棟に負けない環境づくりをしてまいります。また教育学部では、この秋から光庭や壁を飾る作品を、患者さん自身に作成していただく計画を立てています。ぜひ皆様ご参加ください。

（病院長補佐・企画情報部長　高林克日己）

質の高い医療サービスへ

地域の病院、診療所と密接な連携

●地域医療連携部

患者さんとそのご家族のさまざまな相談に乗るとともに、地域の医療機関との密接な連携によって、さらに質の高い医療サービスの提供に努めるのが「地域医療連携部」の使命です。

専門スタッフが療養相談、退院後の支援も

具体的には、患者さんの療養および退院後の生活、在宅介護に関する相談について、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどの専門の相談員が応じ、適切なアドバイスをすること。また、千葉大学病院から地域の医療機関へ、地域の医療機関から千葉大学病院への紹介を通じて、高度で質の高い療養生活が継続して送れるよう、トータルな支援をしています。

このほか、千葉県の総合難病相談・支援センター、地域がん診療連携拠点病院の相談支援センター、ボランティアの受け入れ及び窓口とコーディネートするのも重要な業務です。

大学病院本来の役割を果たしたい

「地域医療連携部」設立の背景には、本来千葉大学病院は、臨床医療を行いながら高度医療の研究開発を進めることを目的としているのですが、外来1日1000名を想定しているところに、2000名を超える患者さんが訪れる―という状況があります。この中には、高度医療を必要としない患者さんの割合も増えています。

このため本来の役割である〈高度医療の研究開発〉に影響が出ており、また患者さんの待ち時間も長くなることにつながっています。

〈循環型地域連携パス〉を制度化へ

そこで検討しているのが〈循環型地域連携パス〉。県医師会、大学病院、民間医療機関との連携を強化し、どこの医療機関にかかっても同じ治療が受けられる体制づくりに取り組んでいて、来年度から救急医療・災害時の医療・周産期医療・小児科医療を対象に実施する予定です。

〔地域医療連携部の主な活動内容〕

(1)患者さんやご家族が満足できるよう、退院に向けた支援を行います
(2)入院・外来を問わず、介護や療養などの相談に応じます
(3)病気や障害によって生じる経済的、社会的問題の相談に応じます
(4)地域医療機関への紹介や本院への患者受け入れのサポートを行います
(5)患者さんやご家族の苦情や相談をお受けします(患者様相談窓口)
(6)総合難病相談・支援センターとして、県内の地域難病相談・支援センターからの相談に応じます
(7)地域がん診療連携拠点病院相談支援センターとして、がん患者さんの相談に応じます
(8)ボランティアの受け入れ及びコーディネートを行います

〔相談受付〕

●場所／地下1階　地域医療連携部
●相談受付時間／月曜～金曜　9：30～16：30
●電話番号／043-222-7171
内線6487～6491
※電話での相談はご遠慮ください
※相談をご希望の方は、事前に担当医師、看護師にお申し出ください
※直接お越しいただいても相談受付はできますが、お待ちいただく場合がございます。できるだけ事前に予約をお願いいたします
※秘密は厳守いたします

快適な療養環境が好評です 新病棟の人気・注目スポット

千葉大学病院ひがし棟がオープンして約半年――。世界の最先端をゆく医療システムはもとより、展望レストランや廊下を利用したギャラリー、周辺の豊かな緑地など、快適な療養環境は、患者さんや家族の方々にも大好評。そのうち特に「図書室」「特別室」は、人気スポット・注目スポットといえます。

がんの闘病記など150冊を所蔵

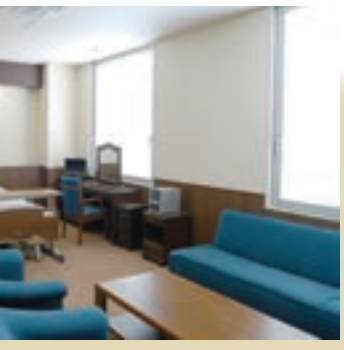
◆図書室

「図書室」は11階展望レストランの隣にあります。中央に8人掛けの応接セットが置かれ、コーヒーを飲みながらゆっくりとくつろげる。書棚には小説、実用書、新聞、雑誌があります。窓側のコーナーには〈がん闘病〉などに関する書籍約150冊があり、患者さんが自由に読めるようになっています。

病気と闘った先輩が、どんな心理をたどってきたのか――などを知り、勇気づけられる人もいます。にし病棟から、朝夕約100メートル離れる図書室へ来る患者さんもいて、「毎日来るといい運動になる」とリハビリを兼ね、癒しの場となっています。

「図書室」の係員は「図書室は憩いの場であり、闘病生活の中で潤いを与えてくれた――と退院報告に来る方もいて、本当にうれしい。本の貸し出しもしていますので、自由に利用してください。11階にある図書室は展望も良く、南に開けた窓から千葉港や千葉市、市原市へ伸びる東京湾が望めます」と話しています。

キッチンも備えたワンルームタイプも――



◆特別室

ひがし病棟10階にある「特別室」は、25床で看護師が22人。他の病棟よりも多く配置され、安心して治療や検査に専念できる特別な空間です。控え室のある3ルームタイプ、ミニキッチンを完備したワンルームタイプ、必要にして十分な設備を完備したタイプ、機能性を重視した部屋――など4タイプが揃っていま

mini news

市民公開講座『がんと上手につきあう患者学』

平成18年6月「がん対策基本法」が施行されたことに伴い、ことし2月千葉大学病院は〈地域がん診療連携拠点病院〉に厚生労働省から指定されました。

この法律では、すべてのがん患者が全国どこでも質の高い医療が受けられるよう、各地に〈地域がん診療連携拠点病院〉を設置していく――としています。

千葉大学病院は、千葉県内で指定された12施設のひとつであるとともに、千葉県がんセンターと並んで、全県的対応を担うことになりました。そこで、県民をはじめ医療従事者のがん対策の充実をめざし、下記のとおり『市民公開講座』を開催しますので、奮ってご参加ください。

― 記 ―

■テーマ／がんと上手につきあう患者学
―あなたは医療者のサポートを100%活用していますか？（仮題）
■日 時／2009年1月17日(土)　PM1:30～4:30
■会場／千葉市民会館(JR千葉駅から徒歩7分)
■会費／無料
■募集人員／300名程度
■内容
・開会挨拶　河野陽一(千葉大学医学部附属病院長)
・シンポジウム「病院が提供するがん医療サービス」
1）医師の立場から：榊原雅裕(乳腺・甲状腺外科)
2）看護師の立場から：奥朋子(看護師長)
3）薬剤師の立場から：佐伯宏美(薬剤部)
4）ソーシャル・ワーカーの立場から：山口梨沙(地域医療連携部)
5）患者の立場から
・総合討論「セルフケアのためのがんチーム医療」
司　会：滝口裕一(臨床腫瘍部)
■主催／千葉大学医学部附属病院
■後援／千葉県、千葉県医師会、千葉市医師会、千葉県看護協会、千葉県病院薬剤師会
■申し込み・問い合わせ先
呼吸器内科医局(担当：野崎)
(院内各所に申し込み用紙を設置する予定です。)

〈がんとの共生〉に気配り
●通院治療室

手術後、抗がん剤を併用しながら通院して来られる患者さんの生活全般の相談にも応じているのが「通院治療室」。

5人の看護師がおり、主に抗がん剤の点滴、副作用が患者さんにどう作用するのかなど〈がんとの共生〉をテーマに、点滴治療をはじめ体調のチェックやさまざまな相談に応じています。

ナースステーションは中央に配置され、患者さんの容態を確認できるようになっています。病床は22床(緩和医療室5床)で、年間約7000人前後が利用しています。抗がん剤を使うので、「体重が減ったのに抗がん剤の量がこれでいいのか」などに気を配っています。

静かな音楽が流れる治療室は、ベッドとリクライニング形式の椅子があり、患者さんは、ゆったりくつろいだ雰囲気の中で点滴を受けます。長く一緒に付き合っていく病気なので、副作用をよく知ったうえでその人の生活のリズムを崩さないような気配りも大切です。

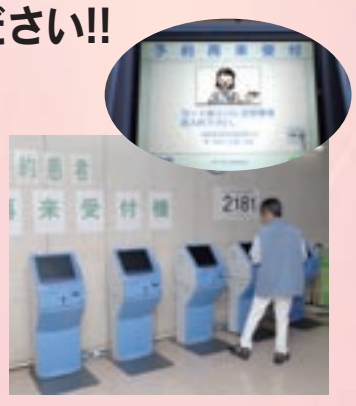
X線CT、MRI検査、核医学(RI)検査のフィルムレス運用が始まりました

本院では、去る8月5日よりX線CT検査、MRI検査、核医学(RI)検査の3検査について、フィルムレス運用を開始しました。

フィルムレスとは、検査結果をフィルムに出力せず、診察室に設置されたモニター上で診断を行うシステムです。上記3検査結果は、院内ネットワークを利用し、検査終了後すぐに診察室での閲覧が可能となりました(一部検査については、検査終了後に画像処理を行うため、30分～1時間程度お待ちいただくことがあります)。

これにより検査当日に診察される場合、患者さんはフィルム出力の時間によって診察待ちが長くなるということはなくなります。今後の予定としては、レントゲン撮影のフィルムレス運用を計画しており、患者さんのさらなる利便性向上のため、環境整備を行っていきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(放射線部)

「再来受付機」を必ず通してください!!



本院では、再来予約がある患者さんの受診手続きをスムーズにしたり、受診情報を管理するために「自動再来受付機」を設置しています。受診手続きをされずに診療科等に行かれますと、場合によっては診療待ち時間が増えることになります。

本院に再来予約で来院される患者さんは、必ず診療前(予約時間の30分前より受付できます)に受診手続きをお済ませください。なお、検査等の時間により事前に受診手続きができない場合は、検査等終了後でかまいませんので、必ず「自動再来受付機」で受診手続きを行うようお願いいたします。

千葉大学病院の職場を見学し、体験して

●サマーインターンシップ

看護師寮を見学するインターンシップのみなさん

さる8月18日から5日間と8月25日からの5日間、平成21年3月卒業予定の看護学生を対象に「サマーインターンシップ」が開催されました。

サマーインターンシップは①就職先を検討中の看護学生に、本院の特徴や職場環境を知る機会を提供する　②本院の看護実践の体験や病院スタッフとのふれあいを通し、看護学生が本院への就職を積極的に検討すること――を目的としています。

本院では、3年前からサマーインターンシップを実施していますが、参加者の80%が本院に就職しています。

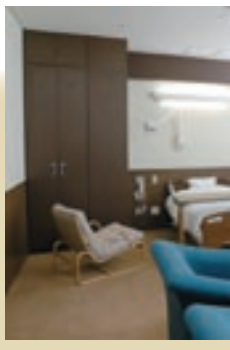
今年は、北海道から岡山県まで延べ80名の看護学生が参加しました。時間は9時から15時まで、5日間参加が原則ですが、3日以上参加可能なら受け付けることにしました。病院概要、看護部概要、新人教育体制について紹介し、病院内見学を終えた後、学生が希望する病棟に配置、看護体験をしてもらいました。3日目には、学生実習では経験できない夜の病棟の様子を体験していただくため、15時から20時45分までの実習でした。

違う学校の学生と交流を図る

参加した学生さんの感想は「就職先の選択に大変参考になった」「就職後のイメージができた」、「スタッフの熱心さが伝わった」「参加した学生と友人になれた」などおおむね好評でした。「もっと多くの病棟を体験したかった」、「もう少し遅くまで夜勤体験をしたかった」「医師の話も聞きたかった」などの意見もありました。

集中治療部でドクターと一緒に安全ケアを行う

来年は、さらに充実したサマーインターンシップを企画しようと考えています。このサマーインターンシップの様子はWebサイト「看護ナビ」(http://kangonavi.jp/)でご覧になれます。



利用者からは「部屋の大きさがちょうどよく、実に過ごしやすい。医師や看護師の対応にはとても満足している」といった声が寄せられています。

共有スペースの〈やすらぎの部屋〉も患者さんに好評で、畳敷きのスペースとマッサージチェアを備え、壁面には絵画を飾り付けてあります。毎月演奏会も開かれ、お琴、クラリネット、ハープなどの音色――。20数人の患者さんとそのご家族のための「ミニコンサート」となっています。

食事は有田焼の食器を使い、見た目にもおいしさを演出。アロマオイルを取り揃え、希望の新聞が読めるなど、安心して治療や検査に専念していただけるきめ細かなサービスが特色です。

ギターとマンドリンの演奏会(10月)

FREE 〈フリートーク〉 TALK

遺伝子治療で世界の最先端を行く

千葉大学医学部附属病院
食道・胃腸外科教授
松原 久裕

〔略　歴〕

東京に生まれ、千葉大学医学部を昭和59年に卒業。のち大学院先端応用外科で引き続き学んだ後、大学病院に就職。

とにかく体を動かすことが好きで、趣味としては水泳、スキー、ヨットなどアウトドア派ですが、多忙のため今は休止中。音楽も好きで、ジャズ、クラシック、ポップスなど何でも聴きます。

教授になって、日曜日の宿直などが減ったので、休日はできるだけ家族と過ごすことにしています。

「がんを治す仕事がしたい」

子供の頃の夢は、パイロットや造船技師もあったのですが、父親の親族にがんで亡くなった人が多かったものですから、やがて「がんを治す仕事を」と思うようになり、千葉大学医学部をめざしたのです。

現在は「食道・胃腸外科」に所属し、初心のとおり食道がん、胃がん、大腸がんの治療と研究に取り組んでいるところです。〈手術〉は外科医の専売特許で、絶望的と思われる病気も治すことができることがある。このことが「食道・胃腸外科」を選んだ理由であり、仕事として最大の魅力でもありました。

世界初！がんの遺伝子治療に成功

がんは、今や日本人の死亡原因のトップで、年間30万人の方が亡くなっています。私のいる「食道・胃腸外科」では、食道・胃・小腸・大腸・肛門のがんの手術、抗がん剤治療、放射線治療のほか、食道アカラシア、逆流性食道炎、胃・大腸のポリープなどの良性疾患の治療を行っています。

平成15年には、世界で初めて食道がんの遺伝子治療を行い、大変な注目を浴びました。この手術が不可能な進行性食道がんに対する遺伝子治療は、その後10例を数えますが、満足すべき結果です。

また、重粒子線（放射線）を使って食道がんの再発を防ぐ最先端の手術も、平成12年から取り組んでおり、特に初期の食道がんについては、重粒子線を当てるだけで手術はしないで済む治療の臨床研究も進んできています。

〈がん〉の診断でも、心配しないで…

「食べた物が飲み込みにくい」「胃が痛い」「お腹が張る」「便が出にくい」「健康診断で便潜血が出た」。このような症状の方は、ぜひ検査を受けていただきたいものです。

そして万一〈がん〉と診断されても、心配しないでください。食道がんでも、初期なら内視鏡による切除で十分ですし、進行がんであっても、千葉大病院では世界の中で最新鋭の医療が提供できます。

近年、がんは遺伝子の異常が原因であることが証明されました。私たちの遺伝子治療から手術まで新しい診療により、がんを克服する日も近い――そんな夢に向かって、今後も臨床研究、治療活動に専念していくつもりです。

いつも笑顔で明るく―がモットー

医師として日頃心がけているのは、患者さんとは、笑顔で明るく接すること。回診のときなど、医者が深刻な表情をしていたのでは、患者さんの不安をさらに増幅してしまいます。患者さんの中には「先生はいつも二コニコしていて素敵！」といってくださる方もおられます。

トピックス

インフルエンザの季節です！

インフルエンザの季節がやって来ました。予防策としてはワクチンが有効であり、特に重症となりやすい年長者（65歳以上）、がんの治療中、心臓病、肺疾患、糖尿病などの人は、積極的にワクチンを受けてください。

本院でも、現在通院中の人にワクチン接種を行っています。65歳以上の人を対象とした公費援助も、お住まいの市町により可能です。期間などの制限もありますので、担当医などにお問い合わせください。

鳥インフルエンザが話題となっています。人に感染するタイプに変化しますと（その段階で新型と呼ばれます）世界的な大流行となり、かつ重症化すると予想されます。いつ変化するかは分かりませんが、きわめて近い時期と推定されています。

今皆様ができることは、新型インフルエンザに関する講習会や報道を通じて正しい知識を得、対策を考えておくことです。通常のインフルエンザの対策は新型でも生きます。院内に掲示されている咳エチケットもその一つです。

（感染症管理治療部・佐藤武幸）

あとがき

暑い暑いと言っていた夏が終わったと思ったら、急に秋が深まってきた今日この頃です。急激な温度変化の中、体調を崩された方もいらっしゃるのではないでしょうか。

１面は、秋にふさわしく食事についての特集です。秋の味覚を満喫しつつ、体力を温存しながらきたるべき冬に備えていきたいものです。

本院は来月から「みなみ棟」の改修工事が始まります。看護師宿舎の増築、「にし棟」の改修、外来棟新築も予定されており、工事中は皆様には何かとご迷惑をおかけすることもあろうかと思います。ご理解の程よろしくお願いいたします。

生まれ変わっていく本院をご覧になりつつ、楽しみにしていただければ幸いです。皆様にとってより良い病院となれるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

（副看護部長〈人材確保担当〉・石原照子）

玄鼻 むかし・昔 6

共に厄除けの神様です

牛頭天王と須佐之男命（すさのおのみこと）

須佐之男命として八坂神社に祀られている（中央区本町）

七天王塚に祀られている牛頭天王は、インドから中国を経て日本に伝わり、厄除けの神として信仰されるようになりました。しかし、私たちは「牛頭天王さまにお参りに行こう」とは、あまりいいません。それでは現在、牛頭天王はどこに行ってしまったのでしょう？実は牛頭天王は明治時代になって、日本にもともとあった神である須佐之男命として、八坂神社に祀られているのです。

須佐之男命は、日本神話で最高の神である天照大神（あまてらすおおみかみ）の弟で、八岐大蛇（やまたのおろち）を退治し出雲で英雄となり、その強い力によって人々の厄を除いてくれると信じられてきました。

牛頭天王と須佐之男命は、共に厄除けの神なのです。

牛頭天王は、妻との間に8人の子供がいたといわれています。ちなみに「八王子」という地名は、牛頭天王の子供に由来しているそうです。須佐之男命と天照大神が誓約して5人の男神と3人の女神を生むというのは、日本神話でとても重要な意味を持っています。牛頭天王も須佐之男命も、子供は8人なのです。

千葉県内にも多くの八坂神社がありますが、千葉市中央区本町1丁目の八坂神社は妙見さまを祀る千葉神社の近くです。

（妙見信仰研究家・宮原さつき）